江別工業団地だより

ついしかり

令和2年4月14日 vol.147

■発行／江別工業団地協同組合　江別市工栄町15の1　電話384-3262■発行責任者／理事長 杉野邦彦■印刷／笹岡印刷株式会社

＊広報「ついしかり」の名称は、江別の発祥の地「対雁」（現在の工業団地周辺）の地名からとったものです。

春を告げるミズバショウ（野幌森林公園）

写真提供／YOKO.M（photoAC）

目　次

○ 表紙 春を告げるミズバショウ …… 1
○ 江別工業団地広報プロジェクト 企業紹介 …… 2～5
○ 令和2年組合新年交礼会 …… 6～7
○ BCP策定セミナー（第1回・第2回）…… 8～9
○ 職長・安全衛生責任者教育講習会 …… 10
○ 麻雀ルーム貸出しのご案内 …… 10
○ 令和元・2年度 共同受電事業報告 …… 11
○ 新規企業・脱退企業等のお知らせ …… 12
○ 山登り同好会からのお知らせ …… 12
○ わが郷土の歴史 その36 …… 13
○ クロスワードパズル …… 14
○ 組合予定行事 …… 14

パピルス化成株式会社

◆お客様だけのオリジナル商品

パピルス化成（株）は、プラスチックシート成形による製造メーカーで、既製品はほとんどない。しかし多いときは一日におおよそ、七万個～八万個もの製品を生産し出荷している。

お客様の大まかな要望を聞き、容器に入れる商品に合わせて営業マンが商品にあった素材の提案を行う。何回かのやり取りを経て、製品の形状やサイズを決定し試作型（金型）を制作する。最終的に、プラスチック容器のサンプル品を成型しお客様に確認してもらい、さらに改善・修正を重ねて、約十～十二週間で完成する。こうして自分が一生懸命作った製品が、世の中に出た時に一番の喜びを感じると常務取締役の大河原さんは言う。

◆環境に配慮した製造

成型法には、真空成型という熱可塑性樹脂シートにヒーターで熱し軟化させ、真空孔を設けた（凹凸型）に押さえつけ、樹脂と型の間の空気を下から吸い真空状態に近い状態を作りだす。次に型に樹脂を密着した後、冷却硬化し離型させ形状を作り出す方法を採用している。

生産時に発生した余分な樹脂シートの部分は、材質別に分別し粉砕（フレーク状）して、リサイクル工場に送る。リサイクル工場に送られたチップは、主にプラスチック製の植木鉢に変わる。このようにほんのわずかな資源を無駄にせず、製品を製造することで、環境に優しい企業の仲間入りができている。

◆若者に一言◆

常務取締役
営業本部長
大河原　義一さん

途中で投げ出したくなることでも最後までやり遂げるようにする。日々、興味の幅を広げる努力を怠ることなく、時には海外にも目を向け他国の文化に触れて価値観を高め、学んだことを活かして欲しい。

原材料は、
長さ約500m重さ約100kgの
シート状のプラスチック

＜パピルスとは＞
カヤツリグサ科の植物の一種
「紙」を意味する英語の「paper」は、
パピルスに由来する。

金型にプラスチックシートを
押し付け整形

金型にプラスチックシートを
押し付けた後

◆企業概要◆

会社名　パピルス化成株式会社
代表取締役　山川　泰司
ＴＥＬ　011-385-0251
住所　〒067-0051
江別市工栄町２３番６号
設立年月　昭和４２年８月
主な製品　プラスチック成形製品

◆コラム

～取材を終えて～

常に他社製品を見て勉強をし「自社では、何が提案できるか」を考えていると聞いた。このように、何事にも興味を持って勉強をして考えることが、製品づくりに活かされているのだと感じた。私も何事にも興味を持って勉強していきたいと思う。

台プレスで不要な部分を切断し
形状を整える

江別の学生に地域の企業を知ってもらいたい。そして市内の企業へ就職するきっかけを作りたい。この江別工業団地には、高い技術と品質を提供する優良な企業がたくさんあり、また私たちの生活にとっても身近で親しみのある会社が多く存在します。札幌学院大学に協力を仰ぎ、学生の皆さんに企業を取材してもらうことで理解を深める機会をもうけました。長い時間をかけ学生が取り組んだ取材記事を、ご紹介いたします。

安全・安心をお客様に

■早川商事株式会社は、建築・土木工事には欠かせない仮設資材を、「安全・安心・信頼・責任の追及」によってお客様に提供している会社である。これまで札幌を中心に函館、釧路と道内3拠点により全道全域に向けて様々なご要望に応えている。そして、更なるサービスの向上、新商品開発、技術革新を怠ることなく、業界リーディングカンパニーを目指している。

■中央整備棟に設置された道内初導入となるハイブリッド型ブラストマシーンは、仮設資材に付着したコンクリートや樹脂塗料等の汚れだけを除去する専用機械で、商品に合わせて投射の強さ・量等を変えることにより品質資材を傷つけずに隅々まで綺麗に仕上げる機能を備えている。

道内初導入となったマシン

■道内初導入となったワイドブラストマシンOCC－H900型(下の写真)は、仮設機材に付着したコンクリートや樹脂塗料等の汚れだけを除去する専用機械である。

ブラスト式で投射する専用メディアを使用し、商品に合わせ投射の強さ・量を替えることにより品質素材を傷めず隅々まで綺麗に仕上げることが可能となっている。また、クラック等の発見も容易となり商品の品質安全管理面でも大きな効力を発揮している。ブラストユニットから全面均一に投射することにより工程も少なく短時間で剥離除去を行い、スイッチ一つで多種類の商品の対応を可能としている。

- 企業データ
- 〒067-0051
- 北海道江別市工栄町 24-3
- 011-380-1100
- 代表取締役　早川　信義

ワイドブラストマシン OCC－H900 型

4つの経営理念

若者への一言

何事も挨拶で始まり挨拶で終わります。元気な挨拶は印象が良いし、逆に元気がない挨拶は印象が悪くなります。そして自分の行動に責任を持ちながら、自分の長所を精一杯出してほしいと思います。「若さ」は皆さんにとって何よりの武器になるので最大限活かしてください。

工場長　平田　要一さん

企画部 課長 鈴木　佑介さん

取材を終えて

今回の取材を通して早川商事さんはお客様と従業員のことを真剣に考え、何よりも大切にしていると感じました。そして、仮設業やリース業においては、利益や効率よりも安全、安心を追及することが大事だということを教えていただきました。また、インタビューの中で、就職活動に向けたアドバイスを頂き、残りの学校生活をしっかりと取り組もうと思いました。

日本ハム惣菜株式会社　北海道工場

何よりも品質・安全を重視

日本ハム惣菜北海道工場は事業拡大に伴い、一九八九年に江別に新設された。

会社のマネジメント方針は、「食の品質・安全、労働安全衛生、環境の向上を前提とし、企業価値を高め、永続的成長を実現」することである。江別工場でも、原材料は全て国産にしており、お客様へ安く、そして何よりも安全にお届けしている。

また、社内での安全環境対策は徹底している。四回にわたり品質・環境・労働安全衛生に関する外部の認証検査を受け、認定されている。

2015年にはFSSC22000を取得し、より一層の食の安全確保に努めている

《日本ハム惣菜が取得した外部認証》

❶2002年、品質マネジメントの認証(ISO9001)を取得。この認証の継続運用のため、審査機関による監査を定期的に受け品質向上に取り組んでいる。

❷2006年。環境マネジメントシステムの認証(ISO14001)を取得。

❸2009年、社内で労働災害防止、従業員の健康増進、快適な職場環境の促進労働安全衛生の向上を目的として改善活動に取り組んだ。それを基礎にして、2010年には認証(OHSAS18001)を取得した。

❹2015年、新たに認証（FSSC22000）を取得し、原材料から製品出荷までの食品安全ハザードの混入を除去したフード全体での適切な管理を行い、食の安全確保するように努めている。

主力商品の四川焼売「国産豚肉と玉ねぎを使用し、肉の旨みと玉ねぎの甘みを活かしたボリューム感のあるジューシーな焼売」

北海道工場の主力商品は『陳健一四川焼売』『ささみチーズカツ』『黒豚ひとくちかつ』などである。

安全でおいしいものを提供するだけでなく、生活における「便利さ」のニーズにもこたえている。パッケージには、「自然解凍でも簡単に」という表示があり、毎日朝早く弁当を作る主婦たちを少しでも楽にしたいという思いからできたものである。

Nipponham

■企業データ■

〒067-0051
北海道江別市工栄町
11番地5
011-382-1129

コラム　～取材を終えて～

日本ハム惣菜さんは安全と美味しさだけでなく、便利さも追求されていた。また従業員の安全や衛生に徹底的に気を配っており、働く環境としても魅力的な企業だと感じた。

若者へ一言

「地元北海道がもっと元気になるように、一生懸命考えて精進してください！」とメッセージをいただきました。

江別の学生に地域の企業を知ってもらいたい。そして市内の企業へ就職するきっかけを作りたい。この江別工業団地には、高い技術と品質を提供する優良な企業がたくさんあり、また私たちの生活にとっても身近で親しみのある会社が多く存在します。札幌学院大学に協力を仰ぎ、学生の皆さんに企業を取材してもらうことで理解を深める機会をもうけました。長い時間をかけ学生が取り組んだ取材記事を、ご紹介いたします。

NIKKON ニッコンホールディングスグループ

日本梱包運輸倉庫株式会社
NIPPON KONPO UNYU SOKO CO.,LTD.

１９５３年株式会社日本梱包運搬車として設立した。そして１９６８年商号を日本梱包運送倉庫に変更。◆日本梱包運送倉庫は、梱包事業から始まり、次に運送事業、そして倉庫事業を加えながら成長してきた。社名も１９５３年の設立当初は株式会社日本梱包運搬社であったが、１９６８年には日本梱包運送倉庫に変更している。

■梱包事業…輸出梱包や流通加工はもとより、包装仕様の設計やバケットや台車といった梱包資材の開発など、広い分野で顧客のニーズにあった各種流通加工サービスを提供しているまた。包装仕様や緩衝材等の部材の開発など、輸出梱包に関しては『ワンストップサービス』を提供している。

■倉庫事業…倉庫事業では、多様なニーズに対応できる倉庫を全国に配置し、工業製品から食品まで、実績と経験にもとづいた幅広いノウハウを基盤にしてお客様の商品をお預かりし、保管している。特に、米穀などを保管する低温倉庫や文書・書類保管などに必要な湿度・温度管理設備なども完備している。

■運送業…北海道内の配送業務をメインに、全国各地への配送も、日本梱包運輸倉庫グループのネットワークにて整備している。主要な輸送貨物は、４輪・２輪・汎用機・農機などの完成車である。またＪＲフェリー・コンテナ利用の複合一貫輸送を実現しており、路線会社との小口貨物の全国輸送を行っている。さらに全社的には、各種特殊車両の開発設計も行い、あらゆるニーズに応えている。他にもバイク便輸送や軽貨物輸送を行いつつ、引越・オフィス移転・イベント業務などを実施している。

企業データ

日本梱包運輸倉庫株式会社

運輸・通信業

〒067-0051

北海道江別市工栄町 25-17

TEL011-384-8808

代表取締役　社長執行役員

大岡　誠司

若者へ一言

社会人になって最も大事なことは挨拶です。元気よく挨拶すればしっかりとしたコミュニケーションがとれます。また、学生の内にしかできないことにチャレンジするのも大事です。資格を取るなど貪欲にチャレンジしてほしいと思います。

私たちが取材しました

あらゆるものを梱包し運ぶことで、経済をダイナミックに動かしていることが理解できました。挨拶と挑戦の

令和2年新しい年を迎え、1月16日（木）午後6時より宴会・法要専用ホールはやし野幌店にて新年交礼会が行われました。今年は暖冬の影響で雪が少なく、ご来賓・組合員の皆様合わせて119名のご出席をいただき、賑やかな交礼会となりました。

杉野理事長

始めに、杉野理事長より、年頭の挨拶があり、昨年、組合創立45周年を迎え様々な記念事業を開催し、特に5年ごとに開催している工業祭では、江別市民を中心に約3,000人の方々が来場し、団地内商品の格安提供、江別市ゆかりのミュージシャンの演奏会（茂呂剛伸さん他）、豪華景品が100名に当たる大抽選会などで盛り上がった事、毎年日本各地で発生する自然災害は、企業においても個人においても甚大な被害を及ぼすことを鑑み、普段から災害に備える準備を一層強めていただきたい事、組合員の皆さんと一緒になって、やる気、元気、本気を出す「チーム工業団地」として、地域に開かれた安全で安心な工業団地づくり、江別地域の活性化に繋がる工業団地づくりをして、ともに成長しましょう！今年は45周年を終えた46年目の年ではなく、50年に向けた1年目のスタートの年なのだと言うお話がありました。

次に、ご来賓を代表して、衆議院議員　和田義明様、参議院議員　勝部賢志様、江別市副市長　佐々木雄二様、江別商工会議所会頭　町村　均様よりご挨拶をいただき、北海道議会議員　星　克明様のご発声で祝宴に入りました。

和田衆議院議員

勝部参議院議員

佐々木副市長

町村江別商工会議所会頭

星道議会議員

木葉道議会議員

情報メディア学部教授 安田光孝様

杉浦憲太郎様

祝宴に入り、テーブルの皆さんのご挨拶交換が終了したころ、昨年、組合創立45周年記念事業の一環として取り組んだ、北海道情報大学×江別工業団地協同組合CM制作プロジェクトの内容を学生リーダー杉浦憲太郎さんからの説明とともに、会場の皆さんに出来上がった映像をみていただきました。何気ない日常生活の中に団地内製品が溢れている紹介CMを、様々な手法で5作品制作していただきました。映像は、組合ホームページで近日紹介予定です。お楽しみに。

そして、映像を見た後は、おまちかね恒例のビンゴゲーム大会を行い、団地内生産商品や江別名産品をお持ち帰りいただきました。

締めのご挨拶は、北海道議会議員 木葉　淳様の乾杯でお開きとなりました。沢山の方にご出席いただき感謝申し上げます。

BCP策定

第1回目
12月13日

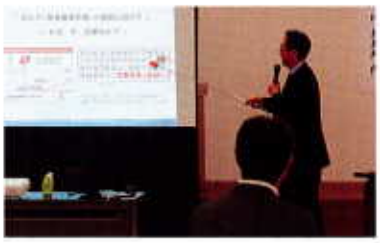
第一回目「ＢＣＰ策定セミナー」が12月13日（金）に工業会館1階ホールで開催され、9企業12名が参加しました。

2018年9月6日の北海道胆振東部地震を踏まえ災害への対応意識を高め、ＢＣＰ策定の重要性を知る目的で「ＢＣＰ（事業継続計画）の策定に向けて」～なぜ、今、必要なの？～と題しオフィス及川 防災プランニング代表の及川太美夫氏に講演いただきました。

及川太美夫先生

第一回目の今回はグループワークを中心とし3班に分かれ各班9月6日の地震停電を踏まえた振り返りを含めた自己紹介を行った後①災害の仮想体験から対応行動を学ぶ②災害の想定から対策への創造を考える2つのテーマについて討論しました。

私の班の自己紹介では「ハンドルで電気を発電できる自動販売機があり助かったので事前に知っておくことが重要」「水が出ないことが一番困った」などそれぞれの地域での情報の違い、そして対策の違いを知ることができました。及川氏は9月6日の災害で困ったこと、役立ったことを共有し災害について「知る」「考える」ことがＢＣＰ策定へ向けての第一歩だと述べられていました。



続いて「**①災害の仮想体験から対応行動を学ぶ**」では「緊急地震速報が来たらすぐ行動するか？」といった問いに対しそれぞれ“ＹＥＳ”“ＮＯ”のカードで回答するクロスロードゲームで考えを発表しました。自分では当然ＹＥＳと思い回答してもＮＯと回答された方の“まずは情報を集めること”等の意見も聞くことで災害について様々な考えを知ることができ大変参考になりました。

また緊急地震速報についてアラームの鳴る条件として①地震が発生し、どこかで震度5弱以上の揺れが予想される時＋②あなたの居る場所が、震度4以上の揺れと予想される時の2つの条件がそろうと携帯からアラームが鳴ると教わり、仕組みを知ることで対策も変わりＢＣＰ策定に活かせること、仮想体験から“もしもの時”を考えることで会社の出社基準、安否確認の方法、代替要員はいるかといったＢＣＰ策定が始まることを学びました。

次に「**②災害の想定から対策への創造を考える**」では、課題を抽出し、あるべき姿から対策を描くことで災害への理想の姿を描き、ＢＣＰの基本である「ひと」：社員、従業員等を考える、「もの」：施設、資機材等を考える、「情報」：データの管理等を考える、「お金」：備えの予算を考える、を踏まえ理想の姿を描くためグループごとに課題、あるべき姿、対策の3点について意見を出し合い発表しました。「あらかじめ出社基準を決める」「複数の連絡手段を確保しておく」など、どの班もA3用紙に書ききれないほどの意見がでており、他の班の発表では同じ課題に対して異なる対策もあり災害に対する事前準備の必要性を改めて感じました。

今回第一回目の「ＢＣＰ策定セミナー」ではグループワークを通じて対策の共有しＢＣＰ策定の重要性を知ることができ“もしも”の時に“その時”こんな体制になっていたらという理想の姿を明確化できたセミナーとなりました。

セミナー

第2回目
1月23日

第二回目「ＢＣＰ策定セミナー」が1月23日（木）に工業会館1階ホールで開催され、10企業13名が参加しました。

更に踏み込んで「ＢＣＰ策定の第一歩」～ここをスタートラインとして～と題し第一回目に続きオフィス及川 防災プランニング代表の及川太美夫氏に講演いただきました。

第一回目の講演では2018年9月6日の北海道胆振東部地震を踏まえた地震災害への対応意識を高めることを目的としていましたが、今回は**①ハザードマップから「まち」を知る！②水害想定から対策へ踏み出す！さらに前進！**と水害への対策を江別市の昭和56年8月の集中豪雨洪水被害を振り返りながらグループで討論しました。まずは「まち」を知るため自宅と職場の通勤経路、自宅周辺、会社周辺の指定避難所を実際にハザードマップに書き込み、帰宅の際の危険の想定や避難場所への安全なルートを知ることができました。

次に市内の一部に**「避難準備・高齢者等避難開始、レベル3」の避難警報が発令され、工業団地地区に「川の氾濫、土砂災害の恐れがあり避難してください」という避難勧告の情報が入った**と想定し、避難するかという問いが出され、会場では避難する、しないの回答はバラバラでした。避難しないと回答した方では、避難レベルの度合いがわからない、危険とわからない場合には工場を離れられないといった声があり、実際に会社においても判断する人、判断基準が決められていなければこのように意見が割れ判断できない状況になってしまう危険性を感じました。

続いて水害想定から対策を生み出すため、**“もしも”夕方、工業団地の地域に大雨洪水災害の危険から避難勧告が発令された！“その時”こんな体制になっていたら！**第二回の今回もＢＣＰの基本を踏まえ理想の姿を描くためグループごとに課題、あるべき姿、対策の3点について意見を出し合いました。

水害対策では職場の浸水する深さを知っておくこと、避難判断の基準の明確化、情報を知るため河川カメラの利用、従業員の帰宅ルートの安全確認、帰宅できない場合の想定など地震対策とは違う意見が多く出ました。そして今回は各班発表という形ではなく、途中で各グループの2名が移動し班の意見を出し合う形になり、より他の班の意見も聞けるものとなりました。

第二回目では地震対策と水害対策の違いからＢＣＰの策定には様々な災害の想定の必要性と企業によって必要な対策の違い、一人の考えでは出てこない課題や対策を多くの企業と話し合い共有し、また企業内でも話し合い共有することが今回のセミナーの目的である災害への意識を高め、ＢＣＰ策定の取り組みを一歩進めるうえで重要であると感じました。

職長・安全衛生責任者教育講習会に参加して

㈱菊水　藤田　英樹

今回、私は「職長・安全衛生責任者教育講習会」に参加させて頂きました。私は現在チーフ職としてラーメン・そばの製造に携わっており安心安全に作業を行うために重要な事、職長としてすべき事は何かを知ることが出来ると思い参加いたしました。

講習会は「朝礼から始まり → 講義 → グループ討議 … 終礼」という流れで2日間行われ、教育・指導の進め方や異常時・災害時における措置など職長の役割、行うべき事柄を詳しく勉強させていただきました。作業を安全に円滑に行う為には、知識だけではなく的確な指示の仕方、部下への配慮、作業者のフォローなどメンバーへの気遣い、コミュニケーションが大事であることを聞き自分に足りなかったものを考え直す事ができ、これからのより良い作業に繋げていこうと思いました。

興味深かった事はグループ討議の中でリスクアセスメント演習があり実際に労働災害の発生事例から危険予知、防止策を各自で考えグループ内で話し合い発表するという内容でしたが、各々の危険に対するリスクレベルの評価の違いやばらつき、低減対策でのアイデアなど、自分の考えと異なる着眼点の意見を色々聞くことができ改めてリスクに対する考え方を再確認できました。講習会で学んだ事を今後の業務に活かせるよう努めて行きたいと思います。

このような機会を与えて頂き感謝いたします。今後も講習会等の開催がございましたら是非参加させて頂きたいと思います。有難うございました。

麻雀ルーム 貸出しのご案内

組合員さんの福利厚生にお使い下さい

工業会館1階に自動麻雀卓8台を設置した麻雀ルーム。
麻雀ルームは、組合員なら誰でも利用できます。
貸出内容は下記のとおりです。

【貸出内容】

使用できる日	日、祝日を除く月～土
使用できる時間	午前8:30 ～ 午後9:00
使用料金	1卓･4名で 5時間まで1,000円
申込方法	組合事務局にて申込（又は、専用用紙でFAX）

2月29日㈯恒例の麻雀大会を開催予定しておりましたが、政府発表の「新型コロナウィルス感染症対策の基本方針」を受け参加される皆さんの健康･安全面を考慮し中止とさせていただきました。
早く収束することを祈ります。

令和元年度 共同受電事業実施報告／令和2年度 事業計画

令和元年度の共同受電事業実施報告

電気料金収支状況報告

使用電力量は、大口需要家の工場改修に伴う停止等により、前年より減少となる52,025,886kWh（前年53,882,232kWh）で終了することとなりました。（前年比−3.45%）

また、需要家への電気料金値引きにつきましては、4月～3月まで電力量料金の4%値引きを実施し、年度総額32,057,847円（前年35,006,309円）前年比−8.42%の値引きとなり、維持管理料については、98,691,945円（前年95,149,068円）前年比+3.72%で終了することとなりました。

受入電気料（値引前）	1,163,257,048円	
支払電気料	1,032,507,256円	
総維持管理料	130,749,792円	（前年比 − 0.46%）
値引額	32,057,847円	（前年比 − 8.42%）
値引後維持管理料	98,691,945円	（前年比 ＋ 3.72%）

設備修繕実施報告

今年度は、5月5日（日）に工業団地全体を停電して、3年ぶりとなる変電所定期点検を実施し、予定通り終了することができました。組合員の皆様には、停電によりご不便をおかけいたしましたが、ご協力いただき誠にありがとうございました。

また、その他修繕では、変電所定期点検による工業団地内停電を利用して、変電所機器の全塗装及び配電線の腕金交換、高圧線張替を実施したほか、3か年計画の2年目として配電線の多系統化を目的とするF2・F3配電系統変更工事を実施いたしました。

また、交通事故による電柱折損事故が2件発生し、いずれも建替え工事を実施いたしました。

令和2年度の共同受電事業計画

設備修繕工事計画

主な工事といたしましては、

① F2・F3配電系統変更工事 → 配電系統の多系統化（3か年計画3年目）
② 電柱建替え（8本）→ 経年劣化による更新
③ 手動開閉器更新工事（2台）→ 経年劣化による更新
④ 柱上変圧器更新工事（4台）→ 経年劣化による更新
⑤ 絶縁監視装置購入 → 周波数再編に伴う更新

その他、配電線各種修繕や変電所変圧器の劣化診断を実施いたします。

お知らせ

組合員の移動状況

■組合加入

令和元年6月18日	㈱西口商事	工栄町3番地3	自社操業

■組合脱退

令和2年3月31日	㈱野幌林産	工栄町3番地3	自社操業
令和2年3月31日	㈱晋	工栄町20番地17	借地操業
令和2年3月31日	㈱鉄建建設	工栄町8番地	自社操業
令和2年3月31日	㈱グローバルトレーディング	工栄町21番地27	借地操業

令和元年度当初135社、加入1社、脱退4社、年度末132社

2020年山登り同好会日程表　▶江別工業団地 山登り同好会

今年の山登りは、例年どおり5月より10月までの6回を計画しています。スタートは5月10日（日）からです。「登ってみたい！」と思う方は、是非、事務局へご連絡ください。お待ちしています。

■第1回　5月10日(日)　銭函天狗山
■第2回　6月14日(日)　シリパ山
■第3回　7月12日(日)　浦臼山
■第4回　8月2日(日)　冷水山
■第5回　9月13日(日)　手稲山
■第6回　10月4日(日)　オロフレ山

銭函天狗山から望む手稲山

強制移住　樺太アイヌ108戸

（江別の歴史を伝える集い会員・一般財団法人北海道文化財保護協会理事）　石垣　秀人

樺太アイヌが脚光を浴びたのは、今年1月、作家川越宗一さんの歴史小説「熱源」（文芸春秋）が第162回直木賞に受賞したことが契機となった。樺太や江別市対雁を舞台に実在の樺太アイヌらを主人公に、差別にさらされた対雁での少年時代から耐え難い悲劇を経ての樺太帰還など、史実を下敷きに描いた壮大なフィクションだ。またアイヌ民族に関して国は、胆振管内白老町にアイヌ文化復興の拠点「民族共生象徴空間（ウポポイ）」を開設、メインの国立アイヌ民族博物館を新型コロナの影響で1か月延期の5月29日に開館する。

アイヌ民族の生活・文化に注目が集まる中、江別には悲劇の樺太アイヌの人たちがいた。

宗谷から再移住、対雁へ

1875（明治8）年、明治政府は榎本武揚を特命全権公使としてロシアとの交渉に当らせ、樺太千島交換条約を締結した。この結果、樺太アイヌの人たちは移住を余儀なくされた。移住先は樺太の見える宗谷地方なら受け入れるとして度重なる説得に応じた。宗谷には108戸841人が移住した。その後、樺太が見える地では望郷の念から樺太へ渡航する者が現れ、ロシアとの国際問題を危惧した開拓使は、石狩地方への再移住の方針をアイヌに伝える。アイヌは強硬に反対し、同情した開拓使大判官松本十郎も宗谷地方で生活できるよう開拓長官黒田清隆に要望も却下され、対雁へ移転となった。

1875年9月9日から10月1日にかけ樺太から宗谷へ移住。翌年6月13日、宗谷から小樽へ。小樽で数日過ごした後6月23日、開拓使は石狩厚田へ移転すると言って上野正（小樽船改所）、巡査ら6人とともにアイヌを孔明丸に乗船させる。銭函沖に来て初めて対雁を告知、船中は騒然となるものの無理やり江別川（現千歳川）河口に着船し上陸させた。1876（明治9）年7月17日、上野正は対雁に移住した樺太アイヌは108戸854人と勧業課へ届け出ている。宗谷移住時からの増は出生と思われる。

対雁の生活と疫病

開拓使は対雁で樺太アイヌに農業で自活させようとするが、元来漁労を生業としていた彼らは漁労による生活を希望したため、当初計画を変更し、漁業を主に農業を従とした定住のための施策を講じた。「住宅建設費の手当て」「漁場の提供と資金供与」「子弟教育の実施」「手工業の授産」など開拓使は予算もかけ多岐にわたるが、生活習慣を変えることは簡単ではなかった。

▲1890（明治23）年、上野正が建立した樺太アイヌの墓「乗佛本願生彼國」（江別市営墓地やすらぎ苑）

1882（明治15）年、開拓使の廃止により、政府は保護年限が尽きたとして対雁移住樺太アイヌの保護を打ち切る。樺太アイヌも打ち切り後の生活の対処を迫られ、樺太移民対策を引き継いだ札幌県の勧業課対雁派出所で樺太アイヌの「保護指導」担当の上野正あてに約定証を提出した。約定証では樺太移民による組合を作り、総長に上野を推薦するものだった。上野は札幌県令に辞表を提出、対雁村旧樺太移民共救組合を組織し、自ら組合長になる。学校を維持しながらの全員の生活を守るのは容易ではなかった。樺太アイヌの多くは組合漁場で働いた。

そうした中、樺太アイヌに大惨事が襲った。致死率の高いコレラ、天然痘の流行だ。国内では1879（明治12）年と1886（明治19）年に大流行し10万人以上が死亡、道内でも4,411人の死亡があった。今年1月に発生した新型コロナウイルスの感染拡大が収まらないがこの比ではない事態だった。密居状態にあった樺太アイヌを直撃し、1879年に30人、1886年から翌年かけ300人以上が亡くなった。共救組合は労働力を失い経営も困難となっていって1897年、事実上解散となった。

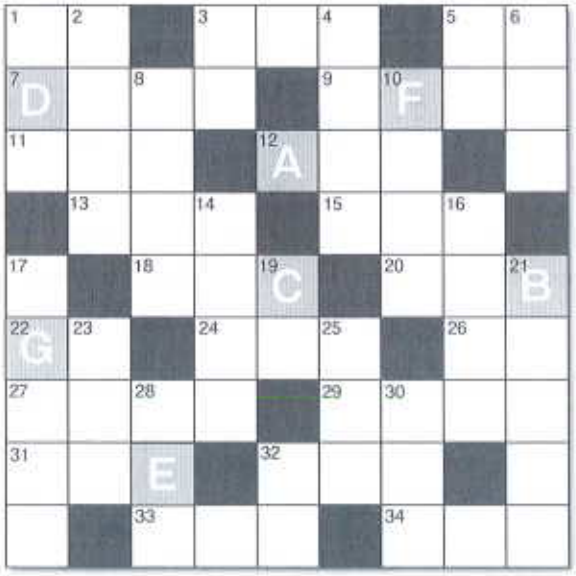
1905（明治38）年、日露戦争で樺太南部が日本領となると、対雁移住アイヌのほとんどが樺太に帰還した。

（参考：江別市郷土資料館展示解説パンフレット「樺太アイヌと対雁」2019）

第85回 クロスワードパズル

今回の答えは［春］にちなんだパズルを選定掲載いたしました。どうぞ解答をお寄せ下さい。

解答はハガキか用紙（自由）に記入して、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、江別市工栄町15番地の1　江別工業団地協同組合広報委員会あて、5月15日までに郵送またはお届け下さい。正解者の中から抽選で10名様に粗品を郵送します。



【タテのカギ】
1　朝鮮半島にあった国。これがないとつまらないものです
2　アウトライン
3　夜の雨
4　口からついつい出てしまいます
5　100%純水を沸かしたものです
6　かかと。〇〇〇を返す
8　ベニスの小舟
10　木管楽器ですがたいてい金属製。横笛の楽器
14　スープの上に浮いている小さく刻んだパン
16　新しいという意味のフランス語。アール〇〇〇〇、ボージョレ〇〇〇〇
17　長野県を流れる川。昨年、台風19号の上陸で堤防が決壊しました
19　囲碁の場合は白石を打ちます。先手⇔〇〇
21　起立、礼の後
23　ブラブラするのが似合う街です。日本有数の繁華街
25　九州の古称
28　戦いに勝った歌を歌っている通貨
30　重さの単位。ボクシングのグローブはこれを用いています
32　査証

【ヨコのカギ】
1　お寺の台所
3　ウコギ科の低木。葉は手のひらのような形をしています
5　〇〇払い、〇〇走り、〇〇乗り
7　競争入札参加者が事前に落札者や価格を前もって決めてしまう不正な話し合い
9　最高気温が0℃未満の日
11　悟りを開いた修行僧
12　いつも怒っている鳥
13　神様や仏様の恵み
15　パリの空の下を流れています。〇〇〇川
18　音楽用語で「幅広くゆっくり」
20　松明。〇〇〇ランプ
22　糖に〇〇
24　筋道。〇〇〇もない
26　小さな火事
27　メンタンピンドライチを完成させた元素
29　陽子や中性子を構成する素粒子。6種類あるそうです
31　絵具、筆、キャンバス…
32　震度1
33　双子座と獅子座の間
34　秋の七草の一つ。最後は枯れ尾花になります

第84回パズルの答え　※正解者総数は47名でした。

A	B	C	D	E	F
シ	チ	フ	ク	ジ	ン

正解者の中から抽選で次の10名の方に景品として㈱菊水の「えべチュンら～めん しょうゆ10人前」を郵送いたしました。

●当選者

石久保　様（江別市）
大　越　様（北広島市）
神　谷　様（札幌市）
鈴　木　様（江別市）
富　田　様（札幌市）
長　澤　様（札幌市）
長谷川　様（札幌市）
松　永　様（札幌市）
森　本　様（東京都）
若　松　様（江別市）

第84回パズルの答え

シ	ク	ラ	メ	ン	■	キ	ガ	タ
ツ	■	フ	イ	■	サ	ザ	ン	カ
キ	ク	■	シ	ノ	ギ	■	シ	ヨ
■	イ	チ	ヨ	ウ	■	モ	ヨ	ウ
カ	■	ー	■	カ	ス	ミ	■	ジ
ホ	オ	ズ	キ	■	イ	ジ	ヒ	■
ウ	リ	■	エ	ク	ボ	■	シ	オ
モ	■	ア	イ	■	ク	ラ	■	バ
ノ	ボ	リ	■	ヒ	ガ	ン	バ	ナ

クロスワードを解き、A～Gをつないだ言葉が答えです。

A	B	C	D	E	F	G

組合予定行事

【4月】
6日（月）～10日（金）／春の定期健康診断
14日（火）／「ついしかり」第147号発行
20日（月）／総務委員会
23日（木）／定例三役会
25日（土）／クリーンアップ清掃活動
28日（火）／監事による令和元年度会計監査

【5月】
8日（金）／理事会
12日（火）／広報編集委員会
20日（水）／定例三役会
27日（水）／第46回通常総会

【6月】
4日（木）／安全衛生委員会
9日（火）／親睦ゴルフ大会
11日（木）／福利厚生広報委員会
16日（火）／定例三役会
17日（水）／共同受電事業委員会
18日（木）／総務委員会
20日（土）／親睦麻雀大会
23日（火）／販売購買委員会
25日（木）／産直朝市実行委員会